

「PED防疫対策の再徹底」

平成30年1～2月現在 10件発生

飼養衛生管理と早期通報の徹底をお願いします

豚流行性下痢(PED)の発生状況 平成29年シーズン(H29.9.1-H30.8.31)

平成30年2月16日現在

発生都道府県	初発事例確認日	累計発生農場数	発生農場数		非発生農場割合	累計発症頭数	累計死亡頭数	頭数の最終確認日
			発生農場数	非発生農場数				
茨城県	平成29年11月13日	10	9	1	10%	3,707	68	平成30年02月15日
栃木県	平成30年01月30日	1	1	0	0%	1,817	100	平成30年02月04日
群馬県	平成29年12月13日	1	1	0	0%	360	287	平成29年12月31日
千葉県	平成29年11月17日	2	2	0	0%	220	30	平成30年01月24日
愛知県	平成29年09月27日	1	1	0	0%	2	0	平成29年09月27日
熊本県	平成29年12月30日	1	1	0	0%	619	5	平成30年01月15日
宮崎県	平成29年12月30日	3	3	0	0%	124	0	平成30年02月07日
7 県		19	18	1	5%	6,849	490	

H30.1月発生 1/14,1/18,1/19 茨城県、1/25 千葉県、1/30 栃木県
2月発生 2/3,2/7,2/14 茨城県、2/6,2/8 宮崎県

茨城県での発生詳細

発生日	飼養頭数	症状
1/14	約1,350頭	繁殖豚の食欲不振、軟便（13頭）
1/18	約500頭	哺乳豚の下痢、繁殖豚の食欲不振（15頭）
1/19	約1,000頭	哺乳豚の下痢、繁殖豚の食欲不振（50頭）
2/3	約1,100頭	繁殖豚の食欲不振、下痢、嘔吐（20頭）
2/7	約27,000頭	哺乳豚の下痢（1,500頭）
2/14	約2,200頭	哺乳豚の下痢、嘔吐（70頭）

*繁殖豚の食欲不振、軟便で発見された例もあるため、注意深い健康状態の観察と、いつもと違う場合はすぐに連絡を

<PED発生農場と非発生農場で差のあった項目>

* 「豚流行性下痢（PED）の疫学調査に係る中間取りまとめ」に関する補完報告書より抜粋

- ・ 他のPED発生農場との関わりあり ・ 特定のと畜場利用
- ・ 過去5年以内にPRRS、ローソニアの発生
- ・ 家畜排せつ物運搬車両の入退場時、運転席マット消毒未実施

早期通報

以下①～③の症状のいずれかに該当する場合は直ちに獣医師、家保へ連絡

- ① 複数の繁殖母豚が分娩した哺乳豚のうち半数以上が水様性下痢、嘔吐または死亡した場合
- ② 同じ繁殖母豚が分娩した哺乳豚のうち1頭以上が水様性下痢や嘔吐、死亡し半日以内に同腹の哺乳豚や他の哺乳豚に同じ症状が出た場合
- ③ 同じ区画で複数の繁殖豚や肥育豚が食欲不振、下痢、嘔吐した場合

* 上記に該当しなくても通常と異なる下痢、嘔吐、食欲不振、死亡があれば連絡する

予防対策

- 1 飼料運搬車、豚運搬車などの車両消毒
 - ・ タイヤハウス、荷台は特に念入りに!! ドアノブ、ペダル、マット等も
- 2 人
 - ・ 手指、靴底消毒 ・ 農場専用の衣服、長靴使用 ・ 入場記録記入
- 3 導入豚
 - ・ 導入元の疾病発生状況把握 ・ 隔離豚舎で2～4週間隔離
- 4 農場内まん延防止
 - ・ 繁殖分娩舎作業員を専従 ・ 豚舎毎に専用衣服、長靴 ・ 作業員の動線分離
- 5 ワクチン
 - ・ 繁殖母豚へのワクチン接種
- 6 早期通報

PEDウイルス4ヶ月感染力が持続するともいわれます

消毒薬

* 土や糞などの付着混入、低温により効果が低下します

- ・ 車両には逆性石鹼、アルデヒド系を高濃度で使用
- ・ 踏込消毒槽はオルソ剤や「1%消石灰 + 逆性石鹼500倍」が即効性と効果持続良い

★異状を認めた場合は家畜保健衛生所に連絡してください

0574-25-3111

土日・祝日・閉庁時は案内に従い「1」番をプッシュしてください
つながらない場合は0574-25-3484 にお願ひします

中濃家畜保健衛生所

TEL 0574-25-3111 FAX 0574-27-3092